

共働きのご夫婦に
お送りする

必見情報



vol.3

4回シリーズの
3回目です

共働きの家計管理術

お金のゆとりを生み出す方程式【お金のゆとり=元本×時間×利率】

「元本」は少ないより多い方がよく、お金を育てる「時間」は短いより長い方がよいですが、お金を増やす力になる「利率」はあまり欲張らない方がよいです。一般的には、利率を高めようとすると、それに見合ったリスクも大きくなることから、あまりお勧めできることはありません。オーソドックスですが、できる限り安全に財産を育てることが原則です。そのため、より多くの元本を蓄えること、早くから財産づくりに取り組むことにより、時間を味方につける必要があります。元本を増やす、つまり今の家計からさらに貯蓄力をアップさせる方法をいくつか紹介します。



ポイント1 家計の使途不明金を退治する

家計における「使途不明金」とは、支出はしているものの何に使ったか記憶に残っていないお金です。この使途不明金は金額の多い少ないはありますが、ほとんどの家計に存在します。毎月の家計の中では1~3万円、ボーナス時には10万円程度ということも珍しくありませんので1家計当たり年間20~50万円ぐらいあるのではないのでしょうか。ちょっとした家計管理を行うことで、この使途不明金は発見できます。そして使途不明金を退治することで、我慢を伴うことなく、貯蓄やより有意義な支出に振り替えることができます。使途不明金を貯蓄に回した場合の貯蓄額を見てみましょう。

家計管理で使途不明金を退治して貯蓄にシフト ※元本ベース
(使途不明金が年間30万円の場合)

20年後	30年後	使途不明金を 放置していたら...
⇒30万円/年間×20年間 =20年後に手元に 600万円残る	⇒30万円/年間×30年間 =30年後に手元に 900万円残る	⇒20年後も30年後も 手元に残るお金はゼロ



ポイント2 自分にあった保障に見直して 貯蓄とゆとり資金へシフト

貯蓄力をアップする有効な手段として「保障」の見直しがあります。やみくもに保険を解約したり、保障額を減らすわけにもいきませんが、ご自身のライフプランや家族構成・必要な保障額・貯蓄状況などを冷静にみってみると、バランスがとれていない場合が意外とあります。保険料も人生総額でみると、数百万円から一千万円を超えることも珍しくない高額な買い物です。もしもの際の必要保障額も、人生のステージ毎に変わっていくことを認識しておきましょう。人生全体の貯蓄(長生きの準備)と保険(もしもの時の準備)のバランスを取ることが大切です。



ポイント3 眠っているお金を働かせる

公的年金制度をはじめとする社会保障制度の将来像や、増えにくい収入・超低金利の預貯金などを考えると、家計においてももう少し投資を活用するのが望ましいです。

だからといって、大切な家族の財産で安易に投機的な運用をして、虎の子の資産を高いリスクにさらすわけにはいきません。しっかりと株式・債券・投資信託などの金融商品の特性を理解し、外国債券・株式の場合は為替変動にも十分注意するなど、リスクへの対策を講じて安全性を高めつつ、家計に必要な利回りを得ていく手順を取ることが大切です(表1)。安全性と収益性を高めるためには、特定の金融商品に集中させるのではなく、さまざまな金融商品に財産を振り分ける「分散投資」と、投資する国や企業の成長を長い目で見守りながら、我が家の財産を共に育てるという「長期運用」の両輪が欠かせません。



(表1)

■毎月5万円の積立を行った場合のシミュレーション 単位:万円

積立手段	利率	10年後	20年後	30年後
タンス預金	0%	600	1,200	1,800
積立定期預金	0.07%	602	1,209	1,820
外国債券等	(4%)	(749)	(1,858)	(3,500)
世界株式等	(7%)	(887)	(2,632)	(6,064)

■手元にある300万円を育てた場合のシミュレーション 単位:万円

積立手段	利率	10年後	20年後	30年後
タンス預金	0%	300	300	300
積立定期預金	0.45%	314	328	343
外国債券等	(4%)	(444)	(657)	(973)
世界株式等	(7%)	(590)	(1,161)	(2,284)

債券・株式の利率は過去の統計値などを参考に算出した概算値で、為替変動リスクなどを考慮した数字ではありません。実際には元本割れすることもあるなど、リスクが高いことに注意してください。表中では、その意味で()を付しています。

※出典/参考 ぐらし塾 きんゆう塾(春号)